史料 3012　　**北町与力などへの褒美**　　旧幕府引継書　天保撰要集

天保 13 年(1942) 5月、評定所審理の実際の取調、吟味にあたった北町奉行所の与力同心へ褒美を与えたいという伺い書。　年番方谷村源左衛門、加藤又左衛門から奉行遠山左衛門尉宛に提出された。

甲斐守殿元組与力仁杉五郎左衛門御吟味一件
相懸候下役其外御褒美取調申上候書付
年番

甲斐守殿元組与力**仁杉五郎左衛門**其外之者とも不届之取斗致し候御吟味一件去酉年十一月五日御下有之急速に取調方被仰渡候処御組内之者重き御吟味筋にて不一方儀極隠密に取調候様御沙汰有之既御列席にて御尋有之甲斐守殿御先役之節御立会に付御影聞も御座候程之儀に付掛り下役とも厚相心得日数三十日之間日々早朝より出勤仕深夜迄相懸一件落着仕候間御褒美之儀上役より相願候書面御下ケ取調可申上旨被仰渡候此儀取調仕候処上役より申上候

御褒美之例は天保元寅年筒井紀伊守殿御掛御書物奉行天文方兼帯高橋作左衛門一件御吟味之節重立取扱候吟味方下役江御伺之上金五百疋宛被下置右同断之節重立取扱候御用部屋書物方同心其外手傳取調候者とも江御手限金三百疋宛被下置候儀にて骨折出精仕候段者強而差別も有之間敷候得共右之最初より御評定所御御詮議ものに而御調之上取扱候与力弐人江御褒美金七両宛同心十四人江金五百疋宛御手限に而与力三人江銀弐枚宛同心弐人江金三百疋宛被下置候

五郎左衛門一件之儀宛最初之御目付殿御立合於御役所御吟味有之其後五手之御掛に相成於御評定所落着被仰渡候間相当二も無御座候間猶先例相糾候処去ル酉年五月於御役所御目付殿御立合御吟味有之候三宅土佐守家来渡辺登其外之もの無人嶋渡海相企候一件御先役大草安房守殿より御伺之上御組与力弐人江御褒美金五両宛同心五人江金三百疋宛被下置候

先例に見合御褒美御願被仰上可然哉二奉存依之別紙例書並被仰上書案相添此段申上候以上

寅五月　　谷村源左衛門
加藤又左衛門